

90歳の現役書道家正津久子さんの作品を集めた特別展「かなもじの世界～ただひとすじに



正津さん(左から3人目)を囲んで話もはずむ座談会

～」が洞爺湖芸術館で、9月11日から23日まで開催されました。

洞爺湖芸術館友の会が主催した同展では、流麗で上品なかな文字の作品26点が展示されました。

正津さんは、50歳で書を始め、現在まで40年「かなもじ」一筋に励まれ、北海道展、毎日展などに入選しています。

15日の正津さんを囲んだ座談会では、書を始めたきっかけや「かな文字は美しくいいものです」とその魅力を語りました。

正津久子さん特別展 流麗で上品なかな文字を展示

敬老の日各自治会で開催 地域で長寿を祝う

9月17日の敬老の日に合わせて、町内の各自治会では長寿を祝う催しものが行われ、地域のお年寄りが集まり、お互いの健康などを確認し合いました。

9月16日に虻田ふれ合いセンターで開かれた虻田1区の「長寿まつり」では、今年対象となる75歳以上のお年寄り67人の内当日40人が参加しました。

参加したみなさんは、食事をしながらカラオケ大会やゲームなどで楽しい時間を過ごし、「柿の木坂の家」の全員合唱では、大きな声が会場に響きました。



虻田1区で開かれた長寿まつり

サクラマス観察会 遡上するサクラマスに歓声

洞爺湖へ注ぐソウベツ川にサクラマスが遡上する季節となった9月22日、洞爺財田自然体験ハウスがサクラマスの観察会「サクラマスを見にいこう」を行い、20人の親子連れが参加しました。

遊歩道のそばにあるえん堤まで歩いて移動し、川に沈めた小型水中カメラから遡上の様子を観察しました。残念ながら、今年は残暑で水温が高いせいか数が少なく、発見する



水中小型カメラでサクラマスを観察する子どもたち

るのが大変でしたが、それでもカメラで見つけると子どもたちは歓声を上げていました。



成長を願って植樹する温泉小の児童

9月26日洞爺湖温泉小学校(加賀谷真由美校長)が、植生回復を目指す「緑

はどうなった？」の授業を行い、トチノキ、オニグルミ、ミズナラなど20種100本の苗木を、小有珠川遊砂地の北側に植えました。

平成16年から同校では、有珠山噴火後の緑の保全を目的とした授業に取り組んでいて、今年も北海道工業大学の岡村俊邦教授などの指導で、全校生徒46人が参加。

植樹の方法の説明を聞いた後、10班に分かれ、直径3メートルの円形に整備した場所に、10本ずつ「成長を願って」大切に植えました。

噴火後の有珠山の緑の回復願い 温泉小全校児童が植樹



まちのわだい